

平成 29 年 7 月 9 日（日）施行

## 第 187 回 全経簿記能力検定試験 1 級 原価計算・工業簿記 解説

### 第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度 参照
2. 原価計算基準 第一章 三 原価の本質（二） 参照
3. 原価計算基準 第一章 四 原価の諸概念（一） 2 参照

### 第 2 問

1. 月末材料は 400 個 先入先出法より、月末棚卸高は 400 個×@¥2,380=¥952,000

月初材料 600 個	当月消費量 3,000 個
当月購入量 2,800 個	月末材料 400 個

消費額は月初棚卸高+当月購入高-月末棚卸高より

$$(600 \text{ 個} \times @¥2,420) + (2,800 \text{ 個} \times @¥2,380) - ¥952,000 = ¥7,164,000$$

2. 予定消費額-実際消費額=¥4,245,000-¥4,322,000=(△)¥77,000 (借方差異)
3. 予定配賦額-実際発生額=¥2,341,000-¥2,286,000=¥55,000 (貸方差異)
4. ¥2,210,000×40%=¥884,000 ⇒ A組仕掛品  
¥2,210,000×60%=¥1,326,000 ⇒ B組仕掛品
5. 省略
6. 省略

### 第 3 問

#### 仕掛品 (先入先出法)

①	¥63,200	400			
②	¥48,500	(100)	5,100		¥1,760,400
③	¥742,500	5,500	200		¥32,000
④	¥1,078,000	(5,500)	600	①	¥81,000
			(300)	②	¥58,800
					¥139,800

先入先出法により、月末仕掛品について

$$\text{材料費単価} = \frac{¥742,500}{5,500} = @¥135$$

$$\text{加工費単価} = \frac{¥1,078,000}{5,500} = @¥196$$

月末仕掛品の評価は

材料費 @¥135×600 個=¥81,000

加工費 @¥196×300 個=¥58,800

よって製造原価は

$$(\text{¥}63,200 + \text{¥}48,500) + (\text{¥}742,500 + \text{¥}1,078,000) - (\text{¥}81,000 + \text{¥}58,800) = \text{¥}1,792,400$$

解答用紙より、副産物の評価額は¥32,000なので、完成品原価は

$$\text{¥}1,792,400 - \text{¥}32,000 = \text{¥}1,760,400$$

## 第4問

### 1. 材料の購入

(借) 材	料	884,000	(貸) 買	掛	金	884,000
-------	---	---------	-------	---	---	---------

このうち主要材料分¥699,000、補助材料分¥185,000

#### (1) 主要材料

取引3より、直接材料費¥686,500 間接材料費¥42,600

(借) 仕	掛	品	686,500	(貸) 材	料	729,100
	製	造	間	接	費	42,600

		材料 (主要材料)			
月初棚卸高	¥78,800	¥686,500	直接材料費		
		¥42,600	間接材料費		
当月購入	¥699,000	¥6,300	棚卸減耗		
		¥42,400	月末棚卸高		

取引6より、月末実地棚卸高が¥42,400なので、貸借差額より

棚卸減耗費は¥6,300 → 製造間接費へ

(借) 製	造	間	接	費	6,300	(貸) 材	料	6,300
-------	---	---	---	---	-------	-------	---	-------

#### (2) 補助材料

		材料 (補助材料)						
前月繰越	¥22,600	¥165,600	→	製	造	間	接	費
当月購入	¥185,000	¥42,000		次	月	繰	越	

取引7より、期末実地棚卸高は¥42,000なので、実際消費高は

$$\text{¥}22,600 + \text{¥}185,000 - \text{¥}42,000 = \text{¥}165,600$$

(借) 製	造	間	接	費	165,600	(貸) 材	料	165,600
-------	---	---	---	---	---------	-------	---	---------

### 2. 賃金給料

当月の給与総支給高¥2,194,000 ⇒ 直接工分¥1,682,000、間接工分¥512,000

#### (1) 直接工

直接工の賃金消費

予定賃率は¥860/時間より、製造指図書及び製造間接費に以下のとおり配賦する。

#601	#602	#603	#604	#602-R1	間接作業	合計
¥533,200	¥404,200	¥559,000	¥266,600	¥73,100	¥98,900	¥1,935,000

#601～#602-R1 → 原価計算表「直接労務費」

(借) 仕	掛	品	1,836,100	(貸) 賃	金	給	料	1,935,000
	製	造	間	接	費	98,900		

賃金給料 (直接工)

当月支払高	¥1,682,000	¥250,000	月初未払高
月末未払高	¥414,000	¥1,836,100	直接作業分
賃率差異	¥89,000	¥98,900	間接作業分

取引8より、月末未払賃金高が¥414,000なので、実際消費高は

$$¥1,682,000 + ¥414,000 - ¥250,000 = ¥1,846,000$$

よって賃率差異は

$$¥1,935,000 - ¥1,846,000 = ¥89,000 \text{ (有利差異)}$$

(借) 賃金給料	89,000	(貸) 賃率差異	89,000
----------	--------	----------	--------

(2) 間接工

賃金給料 (間接工)

当月支払高	¥512,000	¥74,000	月初未払高
月末未払高	¥78,000	¥516,000	実際消費高

取引8より、月末未払賃金高が¥78,000なので、実際消費高は

$$¥512,000 + ¥78,000 - ¥74,000 = ¥516,000$$

(借) 製造間接費	516,000	(貸) 賃金給料	516,000
-----------	---------	----------	---------

3. 製造間接費の配賦

直接作業時間をもとに配賦

$$\text{予定配賦率} : ¥24,610,000 / 23,000 \text{ 時間} = @ ¥1,070$$

	#601	#602	#603	#604	#602-R1	合計
製造間接費	¥663,400	¥502,900	¥695,500	¥331,700	¥90,950	¥2,284,450

#601~#602-R1 → 原価計算表「製造間接費」

(借) 仕掛品	2,284,450	(貸) 製造間接費	2,284,450
---------	-----------	-----------	-----------

取引10より、その他の製造間接費¥1,514,250 (解答用紙に記載済)

貸借差額より

(借) 製造間接費配賦差異	59,200	(貸) 製造間接費	59,200
---------------	--------	-----------	--------

4. 原価計算表より、補修指図書#602-R1の集計額は¥197,650 ⇒ 製造指図書#602に賦課

(借) 仕掛品	197,650	(貸) 仕掛品	197,650
---------	---------	---------	---------

5. 製造指図書#601と#602、#604が完成したので、原価計算表より

¥1,560,000 + ¥1,247,050 + ¥701,300 = ¥3,508,350 を仕掛品勘定から製品勘定に振り替える。

(借) 製品	3,508,350	(貸) 仕掛品	3,508,350
--------	-----------	---------	-----------

さらに、これらは合計販売価格¥5,467,000で即時顧客に引き渡したので、

(借) 売掛金	5,467,000	(貸) 売上	5,467,000
---------	-----------	--------	-----------

(借) 売上原価	3,508,350	(貸) 製品	3,508,350
----------	-----------	--------	-----------

6. 収益・費用を月次損益へ振替

(借) 売上	5,467,000	(貸) 月次損益	5,467,000
--------	-----------	----------	-----------

(借) 月次損益	3,508,350	(貸) 売上原価	3,508,350
----------	-----------	----------	-----------